

コロナウイルス・パンデミックに教育が対応するためのチェックリスト (仮訳)

翻訳：深見俊崇（島根大学教育学部）

1. コロナウイルス・パンデミックへの教育の対応を開発・実施する責任を持つタスクフォースまたは運営委員会を設立すること。可能な限り、タスクフォースのメンバーは、教育システムや学校ネットワークのさまざまな構成員の代表が参加できるようにし、それぞれの業務に関する情報提供にあたって重要かつ多様な視点を持って参加してもらうようにすること。例えば、多様な校種のカリキュラム、教師教育、情報技術、教師の代表、保護者の代表、児童・生徒、関連する場合には産業界の代表などがそのメンバーとなる。
2. ソーシャル・ディスタンス期間中、タスクフォースのメンバー間で頻繁かつ定期的に連絡を取るためのスケジュールと手段を開発すること。
3. 戦略の指針となる原則を定義すること。例えば、児童・生徒と教職員の健康を守ること、教科学習を保障すること、児童・生徒と教員集団に感情的なサポートを提供することが挙げられる。これらの原則によって、取り組むべきイニシアチブが焦点化され、時間やその他の限られた資源に優先順位をつけるのに役立つ。
4. 教育活動が公衆衛生の目標や戦略と連動したり、それらの推進に役立ったりするように、公衆衛生当局との調整プロセスを確立すること。例えば、児童・生徒、保護者、教師、職員にソーシャル・ディスタンスの必要性について教育することである。
5. 現状の教育普及の方法が破壊的であるという現実を踏まえて、カリキュラムの目標に関する優先づけを再検討すること。ソーシャル・ディスタンス期間に何を学ぶべきかを定義すること。
6. ソーシャル・ディスタンス期間が終わった時に、学習時間を回復するための選択肢を実現できるよう可能性を検討しておくこと。例えば、新学年の開始前の休業時間中に集中的な復習期間を設けることなどである。
7. 教育の提供手段を確認すること。最大の汎用性と相互作用の機会を提供することができるので、それらに可能であればオンライン学習を含めるべきである。すべての児童・生徒がデバイスと接続環境を持っていない場合は、彼らにそれらを提供する方法を摸索すること。デバイスと接続性を提供するためのリソースを確保するために、民間部門や地域社会との

連携を探ること。

8. 可能であれば直接指導を行うか、自主学習のためのガイダンスを取り入れることによって、新しい状況で児童・生徒の学習を効果的に舵取りしたり支援したりする教師の役割と期待を明確に定義すること。

9. カリキュラムの目標やそれを実現するための方略、提案された活動や追加のリソースについて、教師、児童・生徒、保護者とコミュニケーションを図るためのウェブサイトを作成すること。

10. もしオンライン教育戦略が実現不可能な場合、教育を普及させるための代替手段を開発すること。例えば、テレビ局との提携が可能な場合はテレビ番組、ポッドキャスト、ラジオ放送、デジタル形式または紙媒体での学習パッケージなどが挙げられる。これらを提供するために、地域社会の組織や民間部門とのパートナーシップを模索すること。

11. 代替的な教育計画の実施期間中には、最も弱い立場にある児童・生徒や家族への適切な支援を確保すること。

12. 相互の学習とウェルビーイングを豊かにするために、児童・生徒間のコミュニケーションと連携を強化すること。

13. 新しい指導形態で学習者をサポートできるように、教師と保護者が必要な時に学べるような研修の仕組みを創造すること。教師の協働と専門的なコミュニティを向上させ、教師の自律性を高めるような形態を生み出すこと。

14. 緊急時における児童・生徒の評価の適切な仕組みを定義すること。

15. 進級・卒業のための適切な仕組みを定めること。

16. 必要に応じて、オンライン教育や他の学習形態を実践する方法、また教師の自律性や協働を支援する方法に関する規制の枠組みを改正すること。これには、代替的な教育計画で授業を受けた日の授業日数のカウントも含まれる。

17. 各学校は、事業継続のための計画を策定すべきである。それらを支援する方法として、教育当局は、他の学校が取り組んだ計画の事例を提供することができる。

18. 学校が児童・生徒に給食を提供している場合には、児童・生徒とその家族に対して食事を提供するための代替手段を開発すること。
19. メンタルヘルス支援といった学校がその他の社会的サービスを提供している場合には、代替的な提供方法を開発すること。
20. 学校は、児童・生徒一人一人とのコミュニケーションシステムを開発し、児童・生徒一人一人と毎日連絡を取るような形をとるべきである。保護者が携帯電話を利用できるようならば、教師からのメールが届くようにしておくのもよい。
21. 学校は、教員や職員が日常的にチェックできる仕組みを整備すべきである。
22. 学校は、未成年者へのオンライン上の脅威からの保護だけでなく、児童・生徒のウェルビーイングとメンタルヘルスを守るために、彼らや家庭にスクリーンタイムやオンラインツールの安全な利用についてのガイダンスを提供すべきである。
23. 他の学校ネットワークやシステムを把握し、それらの学校と定期的にコミュニケーションをとる形を作る。それによって、自分たちのニーズや解決のためのアプローチについて情報を共有したり、新しい形態で教育を提供する際の迅速な改善を促進する方法として、それらの学校から学べたりすることができるようにする。
24. 学校長などが学校における取り組みを成功させるために必要となる財政的支援、後方支援、道徳的支援を受けられるようにすること。
25. コミュニケーション計画を策定すること。緊急事態の間、教育戦略の実行を支援するために、主要な構成員と重要なメッセージをマップ化し、様々なチャネルを通じて効果的に伝達されるようにすること。

出典：

OECD (2020) *A framework to guide an education response to the COVID-19 Pandemic of 2020*.

https://read.oecd-ilibrary.org/view/?ref=126_126988-t63lxosohs&title=A-framework-to-guide-an-education-response-to-the-Covid-19-Pandemic-of-2020